

東京都立定時制高等学校「中退予防対策事業」 8年目の報告会

主催：一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会

日時：2022年7月28日（木）午後6時～午後7時30分

■プログラム

ご挨拶 企画趣旨と事業概略

加勇田修士氏（日本スクールカウンセリング推進協議会支援事業委員長）

講演 東京都教育委員会が把握している成果

久保田哲司氏（東京都教育庁指導部高等学校教育指導課主任指導主事）

実践紹介 1. 中退防止事業から甲州市教育委員会支援までの報告

藤川 章氏（文教大学非常勤講師，元公立中学校校長）

2. 中退防止事業から個別支援・学校支援までの報告

丸山里奈氏（スクールソーシャルワーカー）

質疑応答および意見交換

【教育委員会からのトップダウンで始まった定時制のSGE】

(2018年第17回日本教育カウンセリング研究大会発表より)

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課は、【グループエンカウンター事業】を2015年(平成27年度)から立ち上げるために、同年3月下旬に早稲田大学河村茂雄研究室にガイダンスカウンセラー派遣等のコーディネートを依頼してきた。趣旨は、定時制高校中退者の数を減らすために「自分の気持ちや考えを適切に伝えたり、相手に思いやりを持って受けとめたりする」ことを通して「居場所をつくる」というものである。

コーディネーターとして当時河村研究室に在籍して大学院客員教授であった加勇田の他、ガイダンスカウンセラー13名を派遣して、都立定時制高校(55校)への構成的グループエンカウンター(以下SGE)実践が始まった。

1. 定時制におけるエンカウンターの必要性

平成25年度の都立高校の中退者は、全日制で1.2%、定時制で11.8%であった。定時制は、全日制の約10倍以上の中退率である。定時制課程中退者の学年別の割合は、1年は28.8%、2年は13.2%、3年は8.3%、4年は2.6%であることから、入学後の早い段階での中退者防止対策が求められていた。

定時制高校に入学してくる生徒の多くは対人関係が苦手である。中退する生徒は、自分の居場所を作ることができないうちに学校をやめていく。

- ① 自分が思っていることを素直に表現できない。本音を語れない。
- ② 表面だけの付き合いで自分の内面を打ち明けることができない。
- ③ 相談しあったりできる友人がいない。
- ④ 自分の言葉で傷ついたことに気がつかない。

以上の問題を抱えながらも、入学直後の早い段階でクラスに溶け込むことができれば中退を防ぐことができる。温かいクラスづくりの仕掛けが必要である。その一方で、定時制には深い問題を抱えた生徒が多く、SGEのようなグループ活動で刺激を与えるのは好ましくないという内容を、打ち合わせの段階で発言する教師もいた。

2. エンカウンターの目的・＜仲間とのリレーションを深めることができる＞

【方 法】

1) 対象生徒

都立定時制課程55校の生徒

(グループサイズ4名～150名)

2) SGEの進め方

- ① ウォーミングアップ 自己紹介、グループ作りなど
- ② インストラクション 中心となるエクササイズやルールの説明、教師によるデモンストレーション
- ③ エクササイズ 教師は巡回しながら、必要に応じてエクササイズを支援・介入をする。

- ④ シェアリング 教師の支援のもと、グループ内で振り返りと分かち合い、意見や感想の交換、教師のフィードバック

3) 各リーダーが用いたエクササイズ

リーダーとじゃんけん、リーダーを知るイエス・ノークイズ、質問じゃんけん、足じゃんけん、勝ち残りじゃんけん、名刺交換、10ピースパズル、相性ぴったんこ、他己紹介、エゴグラム、キャリア二者択一、二者択一、君ならどっちがうれしい、非言語による伝言ゲーム、ビンゴ・ゲーム（担任が好きな食べ物・飲み物、高校生に必要な物）、共同絵画、バースデーライン、アドジャン、ネームゲーム、新聞紙タワー、気になる自画像、振り返り。

（各学校の事情により、45分から120分の時間帯で展開されたので、ここに挙げられた中から3～5のエクササイズが使用されたSGEである。）

【手続き】

最後に生徒達を書く振り返りカードの集約、SGE担当の教員からの報告、リーダー（ガイダンスカウンセラー）からの報告をもとにして結果をまとめた。

【結 果】

1年目は、受け入れ校にはかなりの温度差があり、熱心な学校は、「やっと定時制にも日の当る予算が付いたので、この機会を利用してしっかり学んで学級づくりに活用しよう」という姿勢が感じられ、4月の早い段階での実施だった。その次は「突然の都からの指示で困った。効果は疑問だが遺漏の無いように取り組もう。」という姿勢で最も多かった。わずかだが「定時制には無意味な事業だと思うが派遣されるリーダーに丸投げして様子を見よう。」という雰囲気を感じた。たった2校であったが「全く迷惑な事業なので、最小限の付き合いをする程度でよい。校長は打ち合わせにも当日も顔を出さない」という定時制もあった。

3部制の昼・夜間定時制は制服もあり、全日制と変わらない雰囲気で積極的であった。夜間定時制では、不登校傾向・外国籍・発達障害・年配者・やんちゃな生徒など様々なタイプの集団に対して、言語よりもジェスチャーを使うエクササイズが有効な場合があり、体を使うゲーム的なエクササイズの方が盛り上がった。

一般に、ソーシャルスキルのない集団に対してはSGEを展開しない方がよいとされているが、スタート時のぎこちなさや抵抗があっても、終盤を迎える頃までに盛り上げることができればよしとすることで展開してきた。

SGE担当教員からの1年目の報告（1部抜粋）は下記のとおりである。

- ・教員、生徒にとってグループエンカウンターという手法の授業が認知される貴重な機会であった。
- ・グループエンカウンターの手法をとることによって、普段、接点のない生徒同士が話し合い、お互いを知る機会を作ることができた。生徒間の他者理解ができる機会を作ること、クラスという集団の成長につながった。
- ・グループエンカウンターの手法によって誰と一緒にいても大丈夫であることが認知され、生徒自身にも自分のことが理解される喜びが感じられる時間になった。"

- ・今回の授業に限らず、継続的グループエンカウンターを行っていくことで、集団の成長を図る必要がある。生徒間のコミュニケーションの機会を計画的・意図的に実施していくことが重要である。
- ・次回以降の活動では、必ず違うメンバーでグループを構成させ、非日常的空間を常に用意し、刺激を与えることが重要である。
- ・小集団から大集団へ、手を動かすものから体を動かすものへと、より長い時間をとって活動できればよかった。
- ・ほとんどの生徒たちは、活動に積極的に取り組み、楽しんでいた。
- ・教員に入ってもらい手を添えてもらうことによって、生徒たちは、安心感をもって活動にあたる事ができていた。
- ・活動を行っていくなかで、生徒間やクラス内での緊張が少しずつとけていった。
- ・一度も話をしたことのない生徒同士が交流をもち、ゲームを通してお互いに興味や関心があったことに気付く様子がうかがえた。また、活動終了後も話をしている生徒が多く見られた。
- ・4人1グループで作らせて話をさせた時、グループによって生徒間の物理的距離が様々であった。非常に近い距離で話をしているグループは少なかった。
- ・男女を必ず混ぜる構成によって、生徒間で緊張感が生まれ活動が活性化していた。
- ・アドジャンでは、グループの中で分かりやすい表現をする生徒がいて、それを模倣して生徒が自分自身の発表に生かそうとする姿が見られた。"

実際に SGE を担当したリーダーから寄せられた各学校生徒の様子・割合、各学校のおおよその評価は、次のとおりである。

3. まとめ

1年目は、定時制 55 校中 53 校で生徒対象の SGE、2 校で職員対象の SGE 校内研修が実施され、91%の肯定的評価を得ることができた。平成 26 年度の定時制中退者 1524 名に比べ、27 年度は 1222 名に減っていることが確認され、28 年度からは 1 校につき年 3 回の実施になった。現在もこの事業は継続されている。

今後の課題として、単発の実践では大きな効果は期待できないので、年間を通して継続的な取り組み体制を作れるかどうかにかかっていることが確認され、担任がリーダーとなって実践する定時制が増えることを期待したい。

ところで、各学校に週 1 回来校しているスクールカウンセラー（治療的な関わりが中心の臨床心理士）には集団対象の SGE は専門外であることから、ガイダンスカウンセラーが依頼されることになった。ガイダンスカウンセラーは、教員免許状と個別のカウンセリング理論とスキルを身につけ、集団対応ができるスキルを持っている。しかし、東京都は「スクールカウンセラーの応募資格」として、ほとんどを臨床心理士が占め、他に医師、大学教員だけにしぼり、ガイダンスカウンセラーの受験を認めていない（隣の埼玉県では H26 年度より同条件でのガイダンスカウンセラーの採用を始めている）。H 27 年度から始まったエンカウンター事業を今後も成功させるためには、予防・開発的カウンセリングのスペシャリストとしてのガイダンスカウンセラーの活躍が必須であると考ええる。

【「いのち」に託されたミッション ～大人になるために必要なこと～】

(2019年2月八王子拓真高校、2021年4月・2022年4月赤羽北桜高校での講話より)

1. 哲学的自己探求・宗教的な修行の道

- ・パスカルのパンセ
- ・座禅の行

2. 人生のさまざまな出来事から「いのち」のミッションに目覚める

- ・人生のさまざまな偶然の出会いや出来事を通してキャリアアンカー（＊１）に気づき、命に託されたミッションに目覚めていく。

3. 悩み苦しみを通しての自己変容の道

- ・自我実現と自己実現の違い
- ・人の生き方には2通りしかない。人を利用する生き方（自我実現）と人を大切にする生き方・社会貢献（自己実現）です。
- ・カウンセラーの活用～ともに歩くカウンセラー。問題の整理、選択肢の提供、自立に向けての支援。心の鏡としての役割。
- ・ストレスマネジメント（＊２）
- ・アサーティブなコミュニケーション（＊３）

＊１ 8つのキャリアアンカーの具体例

- ① 社長、野球の監督など
- ② NHKの番組にあった「プロジェクトX」研究開発のような仕事
- ③ 公務員や大企業の事務職など失業の心配がない
- ④ 画家、陶芸家、作家など
- ⑤ 盲導犬の訓練士、博物館の学芸員、など組織の歯車になるよりこだわりを大切に
- ⑥ 看護師、介護士、カウンセラー、教師など
- ⑦ 警察官、税関、などバッチをつけて社会正義を目指す仕事
- ⑧ スーパーやラーメン店の店長、ホテルのフロント、社長秘書など

＊２ ストレスマネジメントとしての認知行動療法

認知行動療法は、ものの考え方と行動の歪み（かたより）を修正して、バランスの良い思考・行動にしていく心理療法です。カウンセラーと面接をしながら進めることが一般的ですが、自分自身でも認知行動療法をすることもできます。理論とスキルを学ぶことでストレスをためない生き方が身につきます。

＊３ アサーションとは（3つのコミュニケーションタイプ）

①アグレッシブ（攻撃的）

自分のことを中心に考え、相手のことは全く考えないやり方です。例えば、失敗した人に対して、理由や言い分など聞く余地もなく頭ごなしに叱責をするような表現です。自分の気持ちは抑えることなく表現していますが、相手の気持ちは考慮していないので、相手は不快な思いをします。また、怒鳴って威圧的な態度で表現するだけでなく、どんなに優しい口調で言ったとしても、相手に

選択の余地のないような状況で頼み事をするなど、巧妙に自分の欲求を押し付けて、相手を操作して自分の思い通りに動かそうとする態度もアグレッシブな方法と言えます。(ユーメッセージ)

②ノンアサーティブ (非主張的)

ノンアサーティブな方法とは、自分の感情は押し殺して、相手に合わせるようなやり方です。例えば、いつも友人に雑用を頼まれて嫌なのに、はっきりと断れずに引き受けてしまう態度のことです。このような態度は一見すると、相手を配慮しているようにも見えますが、自分の気持ちに率直ではなく、相手に対しても率直ではありません。自分の気持ちを抑え続けていると、次第に欲求不満がつわり、相手に対して「譲ってあげた」という恩着せがましい気持ちや、「人の気も知らないで」という恨みがましい気持ちになってしまいます。

③アサーティブ

アサーティブな方法とは、自分の気持ちや考えを相手に伝えるが、相手のことも配慮するやり方、自分も相手も大切にしたいやり方です。アサーティブな自己表現では攻撃的な方法でも、非主張的な方法でもなく自分の気持ち、考え、信念に対して正直・率直に、また、その場にふさわしい方法で表現します。しかし、どんなにアサーティブに表現したとしても、それが相手に受け入れてもらえるとは限りません。お互いが率直な意見を出し合えば、相手の意見に賛同できないことも出てくるでしょう。そのときに、攻撃的に相手を打ち負かしたり、非主張的に相手に合わせたりするのではなく、お互いが歩寄って一番いい妥協点を探ることがアサーティブなあり方であると言えます。(アイメッセージ)

<参考図書> 「生きる意味を求めて」 V・E・フランクル 諸富祥彦ほか訳 春秋社

「アサーショントレーニング」 平木典子著 金子書房日本・精神技術研究所

<主な共編著書>

「エンカウンターとは何か」 國分ご夫妻、片野、岡田、加勇田、吉田共著

「教師のコミュニケーション事典」 加勇田ほか編著 (第1章を担当) 以上図書文化社

「相談活動に生かせる15の心理技法」 加勇田ほか共著 (論理療法を担当) ほんの森出版

「カウンセリング心理学事典」 加勇田ほか編著 (國分康孝監修) 誠信書房 他多数

都立高等学校等における 長期欠席・中途退学等の現状及び対応

於 日本スクールカウンセリング推進協議会（令和4年7月28日）

東京都教育庁指導部 主任指導主事 久保田哲司

高等学校における 長期欠席の状況

高等学校における長期欠席の状況



【特徴（高等学校）】

- 都立高校全体の長期欠席者数は6,916人で、前年度と比較すると1,453人の増加
- 全日制では3,875人(2,148人)で1,727人増加、定時制では3,041人(3,315人)で274人減少

令和2年度における児童・生徒の問題行動・不登校等の実態について（令和3年10月）
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2020/release20201022_03.html

高等学校における長期欠席の状況

表中〔 〕は中途退学者数に対する割合

項目	病 気	経済的理由	不登校	新型コロナウイルスの感染回避	その他
全日制	537 (704) 13.9%[32.8%]	1 (9) 0.0%[0.4%]	899 (1,015) 23.2%[47.3%]	752 (―) 19.4%[―]	1,686 (420) 43.5%[19.6%]
定時制	367 (372) 12.1%[11.2%]	19 (73) 0.6%[2.2%]	1,699 (2,017) 55.9%[60.8%]	460 (―) 15.1%[―]	496 (853) 16.3%[25.7%]

* 高等学校の長期欠席者数は、理由別に「病気」「経済的理由」「不登校」「新型コロナウイルスの感染回避」「その他」の合計数である。

令和2年度における児童・生徒の問題行動・不登校等の実態について（令和3年10月）
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2020/release20201022_03.html

高等学校における 中途退学の状況

高等学校における中途退学の状況



【特徴（高等学校）】

- 令和2年度における1年間の退学者数は、1,505人（前年度2,165人）

令和2年度における児童・生徒の問題行動・不登校等の実態について（令和3年10月）
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2020/release20201022_03.html

高等学校における中途退学の状況

項目	学校生活・ 学業不適応	進路変更	学業不振
全日制	315 (506) 34.1%[39.7%]	336 (324) 36.4%[25.4%]	188 (298) 20.3%[23.4%]
定時制	232 (363) 39.9%[40.9%]	214 (281) 36.8%[31.7%]	42 (78) 7.2%[8.8%]

表中 [] は中途退学者数に対する割合

令和2年度における児童・生徒の問題行動・不登校等の実態について（令和3年10月）
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2020/release20201022_03.html

高等学校における 原級留置の状況

高等学校における原級留置の状況

項目	原級留置者数	対生徒比率(%)
全日制	151 (186)	0.1 (0.2)
定時制	48 (64)	1.7 (1.9)

令和2年度における児童・生徒の問題行動・不登校等の実態について（令和3年10月）
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2020/release20201022_03.html

これまでの取組や 今後の対応

これまでの取組や今後の対応

○これまでの取組

- ▶ **スクールカウンセラーの配置**
学校の教育相談体制の充実を図り、生徒の学校生活への適応や学校復帰への支援
- ▶ **研修会等への指導主事や心理専門職の派遣、都立学校教育相談担当者連絡会等**
教育相談体制の整備や教育相談活動の充実を図るとともに、教職員の教育相談に関する資質向上
- ▶ **新しいタイプの高校の設置**
個に応じた教育課程の編成や指導体制の充実
- ▶ **「都立高校学カスタンダード」活用事業、生徒による授業評価、東京都教育研究員、東京教師道場、東京都若手教員育成研修及び全都立高校を対象とした授業公開等**
より一層の授業改善の推進

令和2年度における児童・生徒の問題行動・不登校等の実態について（令和3年10月）
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2020/release20201022_03.html

これまでの取組や今後の対応

- ▶ **キャリア教育の全体計画の作成**
生徒の勤労観・職業観や主体的に進路を選択する能力・態度の育成の推進
- ▶ **ユースソーシャルワーカーを含む自立支援チームの設置**
支援を要する生徒等に対するきめ細やかな相談対応等の促進
- ▶ **構成的グループエンカウターの実施**
- ▶ **「中途退学防止改善計画書」の作成**
中途退学防止に向けた組織的な取組の推進

令和2年度における児童・生徒の問題行動・不登校等の実態について（令和3年10月）
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2020/release20201022_03.html

これまでの取組や今後の対応

○今後の対応

- ▶ スクールカウンセラー等による**教員研修や保護者向け講演会の更なる充実**
- ▶ 自立支援チーム等による学校訪問等の機会を捉えた、**支援を要する生徒に対するきめ細やかな相談、家庭との連携・協力や保護者支援のための教育相談体制の整備、医療や福祉等の外部機関との連携や社会資源を活用した長期欠席・中途退学防止策の強化**

令和2年度における児童・生徒の問題行動・不登校等の実態について（令和3年10月）
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2020/release20201022_03.html

■実践紹介1・藤川章氏…資料別添

■実践紹介2・丸山里奈氏…資料別添

■質疑応答

【資料 1】東京都教育委員会 グループエンカウンター連絡会報告書

平成 28 年度 不登校・中途退学対策事業 グループエンカウンター事業について

1 実施概要

○構成的グループエンカウンターとは

- ・リーダーが指示した課題について、互いに表現し合うことで、互いを認め合う体験を促す手法
- ・生徒が自分の気持ちや考えを適切に伝えたり、思いやりをもって相手を受け止めたりすることができるよう、生徒同士や教員との関係等、人間関係を形成するスキルを身に付けさせる。

○構成的グループエンカウンターの実施状況

対象	定時制課程（55校）に在籍する1学年生徒等
実施形態	・講師が生徒対象にエンカウターのプログラムを実施（55校） ・講師が教員対象に研修として実施（3校）第2回、第3回で実施
実施回数	年3回

○実施時期（実施後のアンケートから）

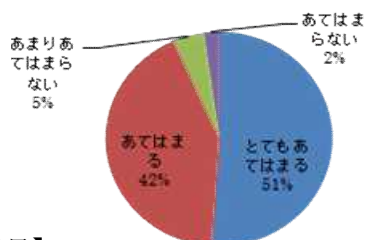
- ・入学当初、長期休業明けに実施し、学校の居場所づくりやクラスの雰囲気を作る上で良い活動となった。
- ・生徒同士が仲良くなるために、年度当初のオリエンテーションとして4月、5月に3回実施したい。

○ 担当教員連絡会の実施

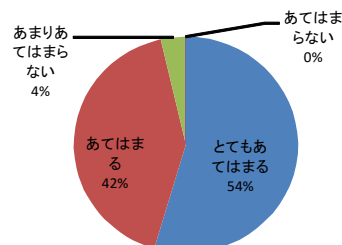
日時	平成28年8月23日（火）14時～17時
会場	国立オリンピック記念青少年総合センター
出席状況	定時制課程 50名 （希望参加：全日制課程の教員5名）
内容	専門家による講義及び演習

【アンケート結果】

「講義」を通して、学級・授業づくりのためのグループエンカウンターについて理解を深めることができた。
肯定的回答・・・96%



「演習」を通して、人間力を高めるエクササイズは自校の取組への参考になった。
肯定的回答・・・96%



【自由意見】

- ・グループエンカウターの意義を教員間で共有したい。
- ・全てを講師任せにせず、教員がリーダーシップをとることが大切。
- ・キャリア教育につなげていくことが有効。

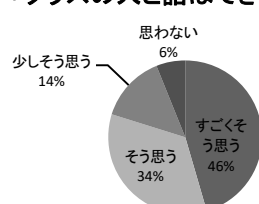
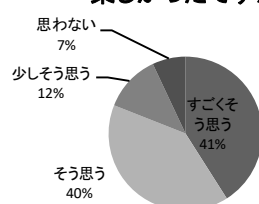
2 成果と課題

○実施後の振り返りシート（第3回 テーマ：キャリアガイダンス）

生徒にとっての成果（生徒アンケートから）	教員の取組、成果
<ul style="list-style-type: none"> ・このエンカウンターをやると心がすっきりする。 ・自分が他人からどう思われているかを知ることができて良かった。 ・意見を一致させることの難しさを知った。 ・相手との情報の共有やコミュニケーションがひとつのことを作ったりするために大切だと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの前半を教員が担当し、講師に指導助言をもらったことで、教員研修としても活用できた。 ・自己理解をすることは、生徒が成長をするために大切なことを学んだ。 ・アクティブ・ラーニングを実施する前提となる安心して意見を言える暖かい雰囲気をつくる訓練になった。

○アンケート（生徒対象、第3回）

「楽しかったですか」 「クラスの人と話はできましたか」

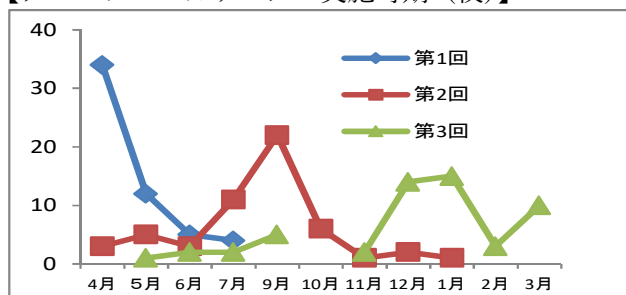


○成果と課題

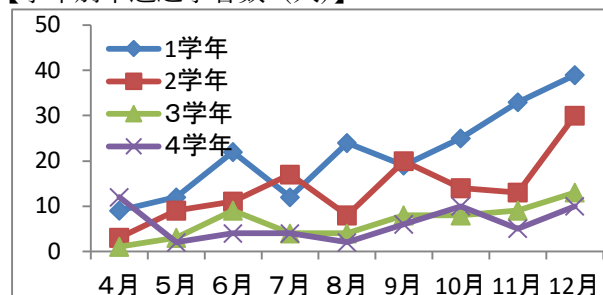
- 「クラスの人と話ができた」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒は80%だった。
- 生徒の状況に応じてプログラムの実施方法を工夫する。

○平成28年度中途退学者数の現状

【グループエンカウンター実施時期（校）】



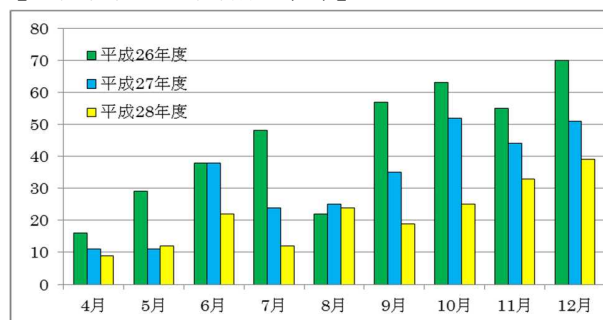
【学年別中途退学者数（人）】



【1学年中途退学者数の比較】

平成27年度										
課程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
定時制	11	11	38	24	25	35	52	44	51	
平成28年度										
課程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
定時制	9	12	22	12	24	20	25	34	40	
前年比										
課程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
定時制	-2	1	-16	-12	-1	-15	-27	-10	-1	

【1学年中途退学者数（人）】



- 平成26年度から比較して、第1学年の中途退学者数は、5月を除いて減少が見られる。12月までの中途退学者数は、198名である。（前年度比マイナス93名）
- 学年別の退学者数を見ると、1年生は6月、10月、11月、12月に増加する傾向にある。

3 平成29年度の実施に向けて

- 年3回のグループエンカウンタープログラムの実施を継続して行う。
- 担当教員連絡会（年1回、8月に実施）を行う。

平成 29 年度 不登校・中途退学対策事業 グループエンカウンター事業について

1. 構成的グループエンカウンターとは

- ・リーダーが指示した課題について、互いに表現し合うことで、互いを認め合う体験を促す手法
- ・生徒が自分の気持ちや考えを適切に伝えたり、思いやりをもって相手を受け止めたりすることができるよう、生徒同士や教員との関係等、人間関係を形成するスキルを身に付けさせる。

2. 構成的グループエンカウンターの実施状況

対 象	定時制課程（５５校）に在籍する１学年生徒
実施形態	講師が生徒を対象にエンカウターのプログラムを実施
実施回数	年３回
実施月	すべての学校が７月までに１回以上実施（４月：４４校）

3. 担当教員連絡会

【目 的】講義を通して、専門家等と連携し各校でグループエンカウンターを実施する際の留意点について学ぶとともに、演習を通してグループエンカウンターについての理解を深め、各校の中途退学防止に向けた取組を推進する。

【日 時】平成２９年８月３０日（水）午後２時から午後５時まで

【場 所】東京都教職員研修センター ８０１(２)(３)研修室

【参加者】担当教員等 ６３名、自立支援担当統括学校経営支援主事

【講 師】ガイダンスカウンセラー 加勇田 修士 氏

東星学園校長・園長 大矢 正則 氏

【プログラム】

1 講義「人間関係構築のきっかけづくりのためのグループエンカウンター」

・構成的グループエンカウンターは、ホンネとホンネで交流できる親密な人間関係を構築し、自己疎外から脱却するために必要

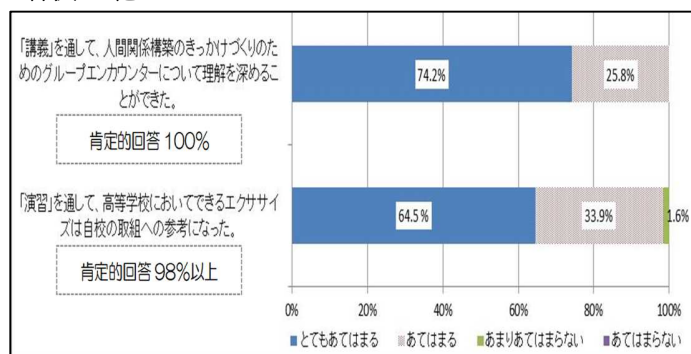
2 演習 「高等学校においてできるエクササイズ」

挨拶、自己紹介（名前リレー）、アドジャン、二者択一 他

【受講アンケート】

○教科指導においてグループエンカウターの要素を取り入れることで中途退学者を減らせるのではないかと。グループエンカウターの考え方や指導方法を教員間で共有したい。

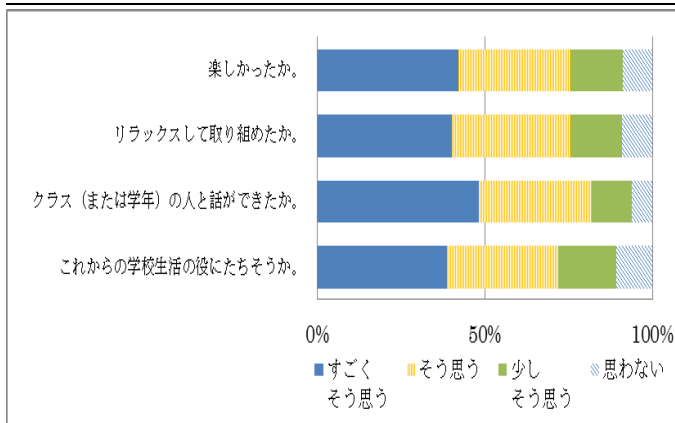
○校内研修や職員打合せ等の機会を活用して全職員にエンカウターのエッセンスをフィードバックしたい。



4. グループエンカウターの実施結果

【実施後のアンケート結果】

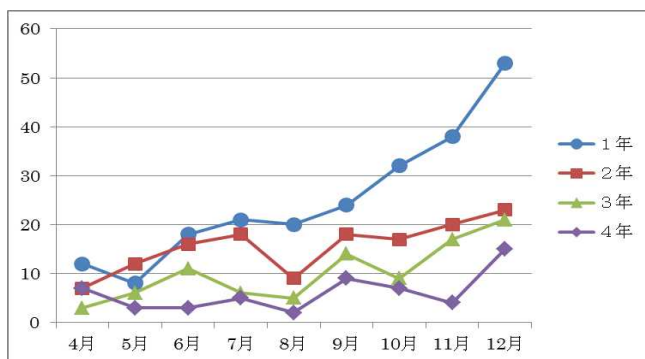
- ・すべての項目について、7割以上の生徒が肯定的に捉えている。



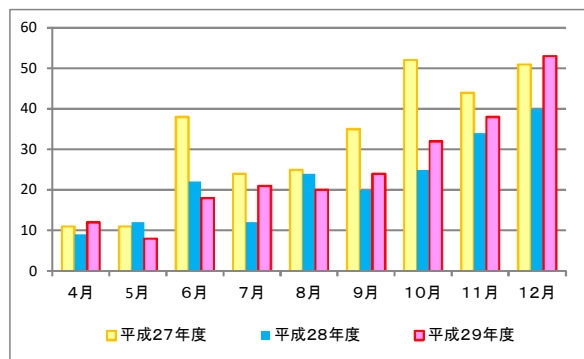
<生徒の自由意見>

- ・人と話すことは苦手だが、優しく接してくれたので楽しかった。
- ・この交流をきっかけに絆が深まった。クラスのことを好きになった。
- ・話したことのない人と話せて楽しかった、少しずつ自分を出したい。
- ・自分から話しかければ楽しく話してくれたので、これからは自分から話しかけたい。

【平成29年度学年別中途退学者数（人）】



【月別中途退学者数の推移】



【月別中途退学者数（人）】

平成27年度										
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
11	11	38	24	25	35	52	44	51	291	
平成28年度										
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
9	12	22	12	24	20	25	34	40	198	
平成29年度										
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
12	8	18	21	20	24	32	38	53	226	

5. 成果と課題

- 成果** 連絡会の実施により、担当教員のグループエンカウターへの理解が深まり、校内への周知が進むことでエンカウターの意義や効果を理解する教員が増えている。
- 課題** 講師による3回の実践を多くの教員が体験し、ホームルームや授業において実践できる知識・技術を習得することが必要である。

平成30年度 グループエンカウンター担当者連絡会 報告

概要

【目 的】講義・演習を通して、グループエンカウターの効果的な実施について理解を深め、専門家等と連携して実施する際の留意点を学ぶことにより、各校の中途退学防止に向けた取組を推進する。

【日 時】平成30年8月29日（水）午後2時から午後5時まで

【場 所】国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟311会議室

【参加者】担当教員等 60名（定時制教員50名、全日制教員10名）

講義「人間関係構築のきっかけづくりのためのグループエンカウンター」

【講師】ガイダンスカウンセラー 加勇田 修士 先生

○キャリア・アンカー

キャリアを選択する際に最も大切な他に譲れない価値観や欲求のこと

○人間関係づくりの基本は、①ワンネス(oneness) ②ウィネス(weness)、③アイネス(Iness)であり、自分の考えをアイメッセージで伝えること。

○現在地の確認

- ①一般的理解（例えば思春期の発達課題）
- ②個別的理解（どれだけ深く理解できるか）
- ③学級・家庭の満足度（マズローの欲求レベル）

○指導体制の在り方

問題が起こることが予防できるような教育実践（予防・開発的なスクールカウンセリング）を中心に展開される指導体制・組織を目指す。



演習「高等学校においてできるエクササイズ」

【講師】ガイダンスカウンセラー 加勇田 修士 先生

○挨拶（目を見て握手して挨拶する）

○二者択一

○サイコロトーク

（出た目の事柄について自分の思いを話す） など



人間関係づくりの手法紹介

ドラマケーション普及センター 松元 どころ氏

○ドラマケーションとは

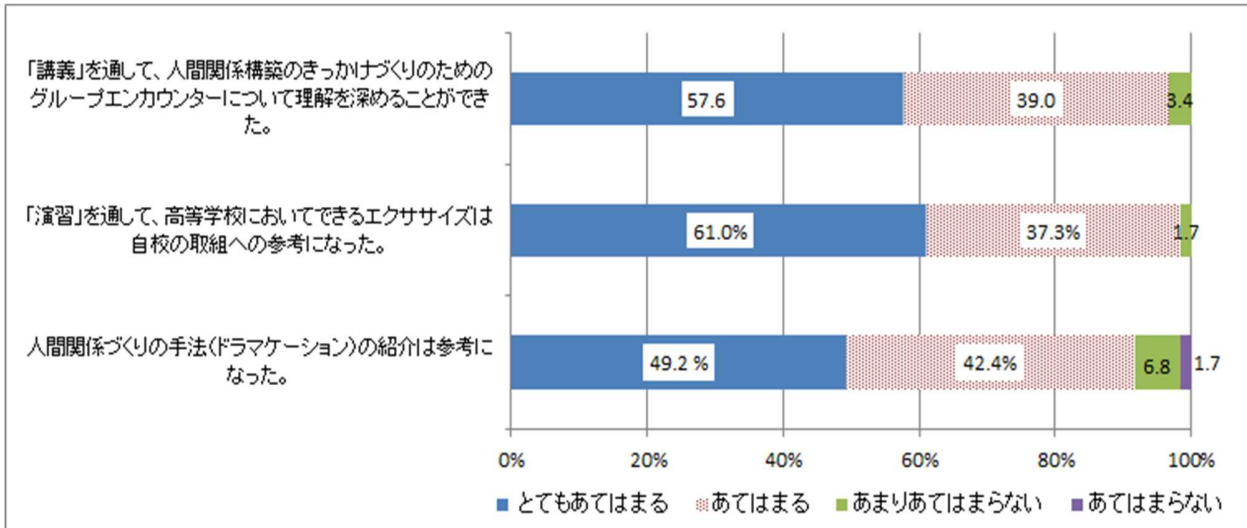
○実施の様子

○構成的グループエンカウンターとの比較



アンケート結果

(1) 本日のグループエンカウンター担当者連絡会について



(2) 自由記述【グループエンカウンター担当者連絡会の内容を、今後どのように生かしていこうと考えていますか。】

- グループエンカウターの目的や効果、必要性について自校で共有し、生徒のコミュニケーション能力向上に生かしたい。
- hyper-QU を活用してクラスの状況、生徒が何を考えているのかを知りたい。
- 今回の教材を参考に「ホームルーム」や「産業と社会」の授業づくりをしたい。
- アサーティブなコミュニケーションを取り入れた人間関係の構築に関する研修会を実施したい。
- S Cによる全員面接実施後、クラスの集団活動の向上などに生かしていきたい。
- 次年度実施する1学年の担任にグループエンカウターの概要等を情報共有する必要がある。
- P T A活動での活用を提案したい。アイメッセージを心掛けて生徒と接する。
- 不登校・中途退学対策事業の概要や中退率の推移など現状の共有を行い、グループエンカウターの必要性を理解させる。
- ドラマケーションは、身体での表現を伴うことで、生徒は楽しみながら学ぶことができる。

成果

○新規の担当者はグループエンカウターの効果や方法について理解できた。

課題

○毎年、同じ担当者が連絡会に参加することがある。

次回に向けて

- 担当者だけでなく広く参加を呼び掛け、教員がグループエンカウターを学ぶ機会を設ける。
- 次年度も内容を充実させ、各校のグループエンカウターの取組に生かす。

令和元年度 グループエンカウンター連絡会 報告

概要

【目 的】講義・演習を通して、グループエンカウターの効果的な実施について理解を深め、専門家等と連携して実施する際の留意点を学ぶことにより、各校の中途退学防止に向けた取組を推進する。

【日 時】令和元年8月8日（木）午後2時から午後5時まで

【場 所】教職員研修センター 111 研修室

【参加者】担当教員等 66名（定時制教員48名、全日制教員18名）

講義「豊かな人間関係づくり」

【講師】ガイダンスカウンセラー 加勇田 修士 先生

○キャリア・アンカー

- ・キャリアを選択する際に最も大切な他に譲れない価値観や欲求のこと

○人間関係づくりの基本は、①ワンネス(eness)

- ②ウィネス(weness)、③アイネス(Iness)であり、自分の考えをアイメッセージで伝えること。

○クラスの満足度指標「Q-U」

- ・生徒や保護者に実施、教員の行動タイプ

○ジョハリの窓

- ・自己開示とフィードバック
- ・「自分の知っている自分」と「他人の知っている自分」

演習 「高等学校においてできるエクササイズ」

【講師】ガイダンスカウンセラー 加勇田 修士 先生

○質問じゃんけん

○アドジャン など

人間関係づくりの手法紹介 「チームビルディングワークについて」

NPO法人16歳の仕事塾 理事長 堀部 伸二 様

○「16歳の仕事塾」活動紹介

○チームビルディングの手法

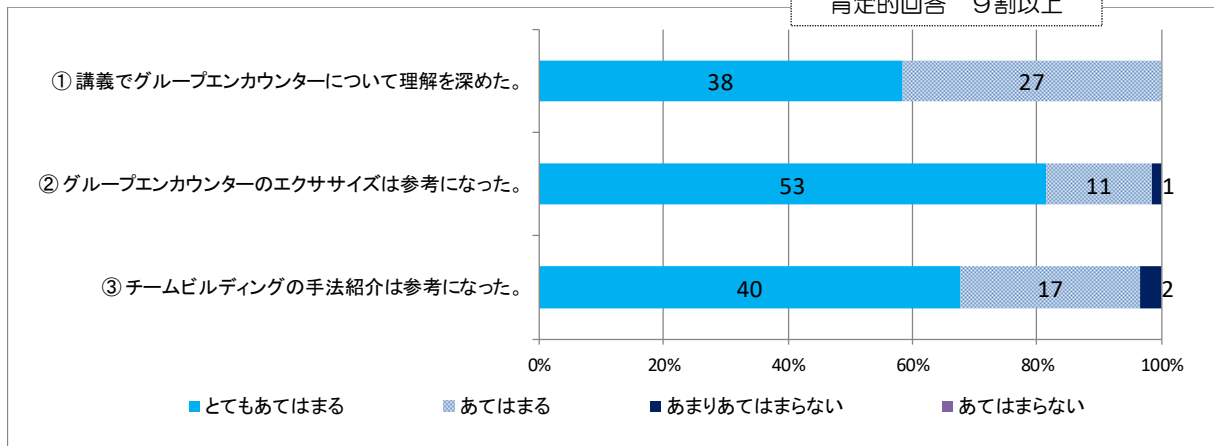
○「紙タワー」体験

- ・グループで A4 用紙 25 枚・8 分間でできるだけ高いタワーを作る



アンケート結果

(1) 本日のグループエンカウンター連絡会について



(2) 自由記述【グループエンカウンター担当者連絡会の内容を、今後どのように生かしていこうと考えていますか。】

- グループエンカウンターの目的や効果、必要性について自校で共有し、生徒のコミュニケーション能力向上に生かしたい。
- hyper-QUを活用してクラスの状況、生徒が何を考えているのかを知りたい。
- 今回の教材を参考に「ホームルーム」や「産業と社会」の授業づくりをしたい。
- アサーティブなコミュニケーションを取り入れた人間関係の構築に関する研修会を実施したい。
- S Cによる全員面接実施後、クラスの集団活動の向上などに生かしていきたい。
- 次年度実施する1学年の担任にグループエンカウンターの概要等を情報共有する必要がある。
- P T A活動での活用を提案したい。アイメッセージを心掛けて生徒と接する。
- 不登校・中途退学対策事業の概要や中退率の推移など現状の共有を行い、グループエンカウンターの必要性を理解させる。
- ドラマケーションは、身体での表現を伴うことで、生徒は楽しみながら学ぶことができる。

成果

課題

○新規の担当者はグループエンカウンターの効果や方法について理解できた。

○毎年、同じ担当者が連絡会に参加することがある。

次回に向けて

- 担当者だけでなく広く参加を呼び掛け、教員がグループエンカウンターを学ぶ機会を設ける。
- 次年度も内容を充実させ、各校のグループエンカウンターの取組に生かす。

令和3年度 グループエンカウンター連絡会 報告

概要

- 【目的】 講義を通して人間関係づくりの意義や様々な手法の他、各校でグループエンカウンターを実施する際の留意点について学ぶとともに、演習を通してグループエンカウンター等の実践的な人間関係づくりの手法についての理解を深める。
- 【日時】 令和3年7月27日（火）午後2時から午後4時45分まで
- 【場所】 Microsoft Teams によるオンライン開催
- 【参加者】 担当教員等 75名（定時制50名、全日制24名、中等教育学校後期課程1名）

講義 「人間関係づくりのきっかけとなるグループエンカウンター」

【講師】 一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会理事 加勇田 修士 氏

- 構成的グループエンカウンター（SGE）とは
- 高等学校における展開例

演習 「『新しい日常』における効果的なエクササイズ」

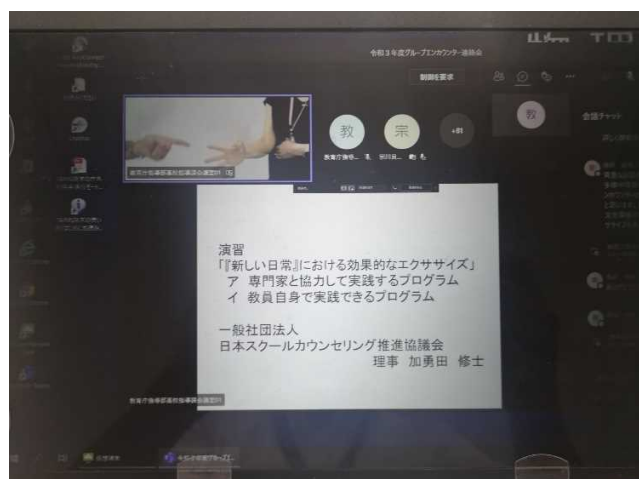
【講師】 一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会理事 加勇田 修士 氏

- 専門家と協力して実践するプログラム
- 教員自身で実践できるプログラム

人間関係づくりの手法紹介 「ドラマケーション」

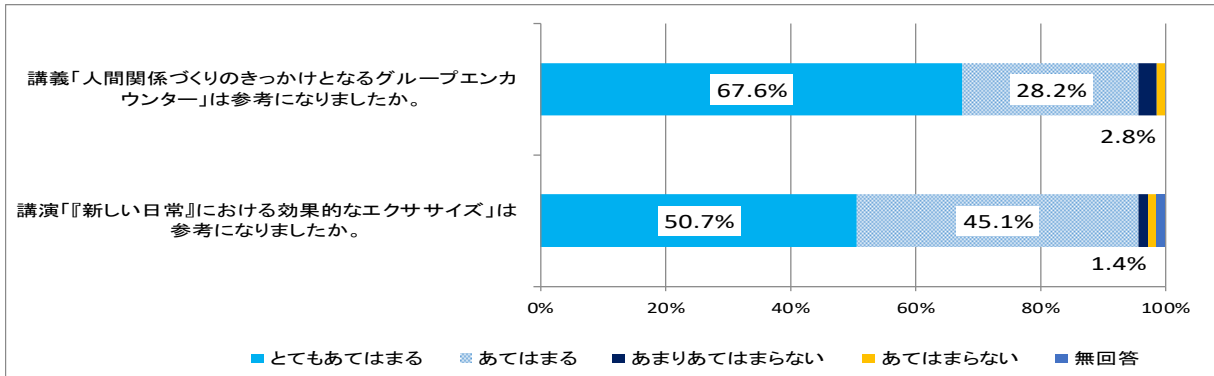
特定非営利活動法人ドラマケーション普及センター理事長 幸野 ソロ 氏

- ドラマケーションとは
- 学校での実施例



アンケート結果

(1) 本日のグループエンカウンター担当者連絡会について



2) 自由記述【本日の「グループエンカウンター連絡会」の内容を、今後、自校でどのように生かしていこうと考えていますか。】

- LHR等で生徒同士の人間関係づくりに生かす。
- 教員が実践できるよう、校内研修で教員へ伝達する。
- 進路指導の中で生徒が自身の考えを述べるができるように、教員と生徒との人間関係づくりに生かす。
- 委員会活動等で生徒同士の理解を深めるために活用する。
- 教員の対応に差異が生じる場合があるため、学年・学期ごとに実施計画を立てる必要がある。

(3) 自由記述【本日の「グループエンカウンター連絡会」について、御意見や御感想があれば記入してください。】

- 年度当初に連絡会を開催してもらうと、教員の共通理解が図れるため、グループエンカウンターが実施しやすくなる。
- チャット機能を活用したことにより、参加者の質問事項を共有化しやすかった。
- 実践演習や動画共有により講義・演習の内容が分かりやすかった。
- 対面形式でエクササイズを体験できた方がよかった。
- もう少し早くオンラインで実施することを決定してほしい。

課題

- グループエンカウンターを実施する際の留意点を学び、演習を通して実践的な人間関係づくりの手法についての理解を深めることができた。

成果

- オンライン開催での教員間の協議方法を確立する必要がある。

次年度に向けて

- 定時制の教員はもちろん、全日制・通信制の教員にも広く参加を呼び掛け、人間関係づくりの手法を学ぶとともに、外部人材を活用する方法を周知する機会を設ける。
- 実施時期や方法について検討するとともに、各学校で人間関係づくりの機会をどのように設定するか協議する内容を加える。

定時制課程中途退学者の理由別内訳（平成 25 年度から平成 27 年度まで）

定時制課程

（単位：人）

区 分	平成 2 7 年度		平成 2 6 年度		平成 2 5 年度	
	昼夜間	夜間	昼夜間	夜間	昼夜間	夜間
学業不振	81 (30)	111	33 (7)	116	47 (9)	161
学校生活・学業不適応	204 (52)	244	246 (79)	441	329 (108)	436
進路変更	204 (112)	198	230 (100)	267	204 (84)	253
病気・けが・死亡	12 (4)	23	27 (16)	24	20 (15)	15
経済的理由	2 (0)	17	12 (1)	10	11 (2)	11
家庭の事情	15 (8)	49	17 (6)	34	22 (9)	38
問題行動等	10 (1)	13	14 (4)	28	21 (4)	35
その他	7 (4)	32	16 (10)	9	19 (14)	37
小 計	535 (211)	687	595 (223)	929	673 (245)	986
計	1, 222		1, 524		1, 659	

注 1 学校生活・学業不適応：当該学校、高校生活又は授業に対する熱意、興味、関心、適応等

注 2 表中の「昼夜間」内にある（）の値は、昼夜間定時制のうちチャレンジスクールの値である。

【資料2】 実施内容と生徒の感想など

<平成27年度 大江戸高等学校>

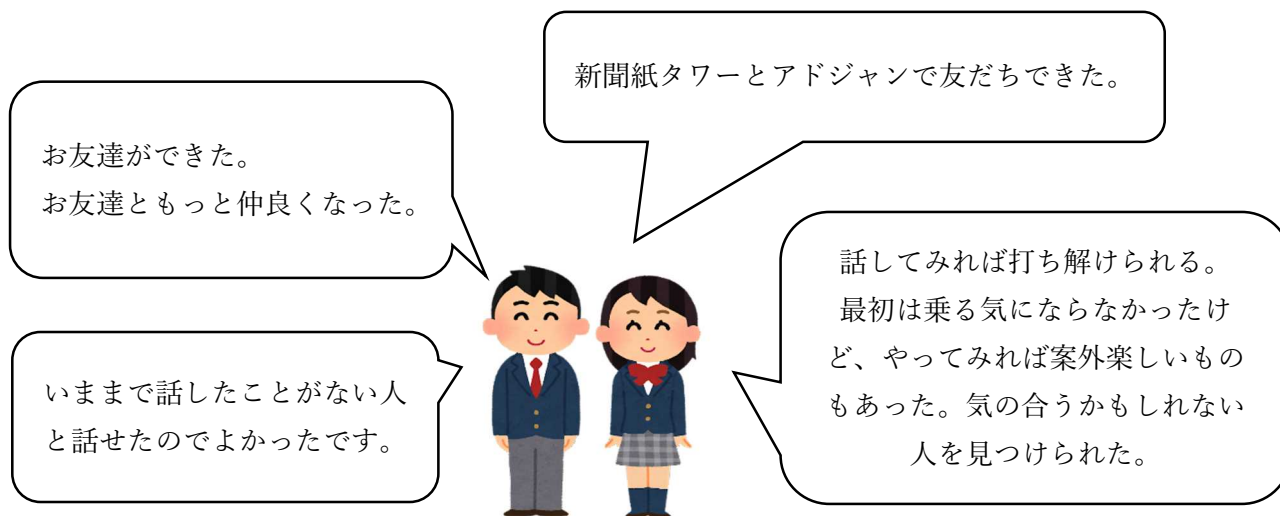
- ① バースデーライン (非言語)
- ② 質問ジャンケン 「あなたに関心があるよ、という気持ちで質問する」
—その答えに突っ込んで聞きたくなったら聞いてよい—
 - ・好きな食べ物 ・好きなスポーツ ・好きな色 ・好きなタレント
 - ・好きな動物 ・好きな音楽 ・好きなゲーム ・好きなスポーツ
 - ・最近嬉しかったこと ・どこに旅したい ・休日は何をしている ・やってみたいこと(調整タイム・・・勝負が偏っていた場合のため)
- ③ 他己紹介 「ペア相手を売り込むつもりで紹介する」
- ④ シェアリング (分かち合い)
「ここまでのエクササイズを通して感じたこと・気づいたこと」
- ⑤ 「アド・ジャン」
(シェアリングを入れる)
- ⑥ ネームゲーム (時間調整用)



入学式の翌日に実施した。まずは名前の自己紹介から始めて、二人組質問ジャンケン → 四人組他己紹介 → 指足しアドジャンと進む。60分展開した。ある二人の生徒は、「あーおもしろかった。私この学校でボッチにならなくて済んだよ」「あっ、オレも」。一人ぼっちの体験は辛いものだが、友達づくりに構成的グループエンカウンターは効果的である。5クラス150人の生徒を体育館に一堂に集めて行ったことで、生徒一人一人が自己を語り、それをグループのメンバーが傾聴するという活動を展開することができた。

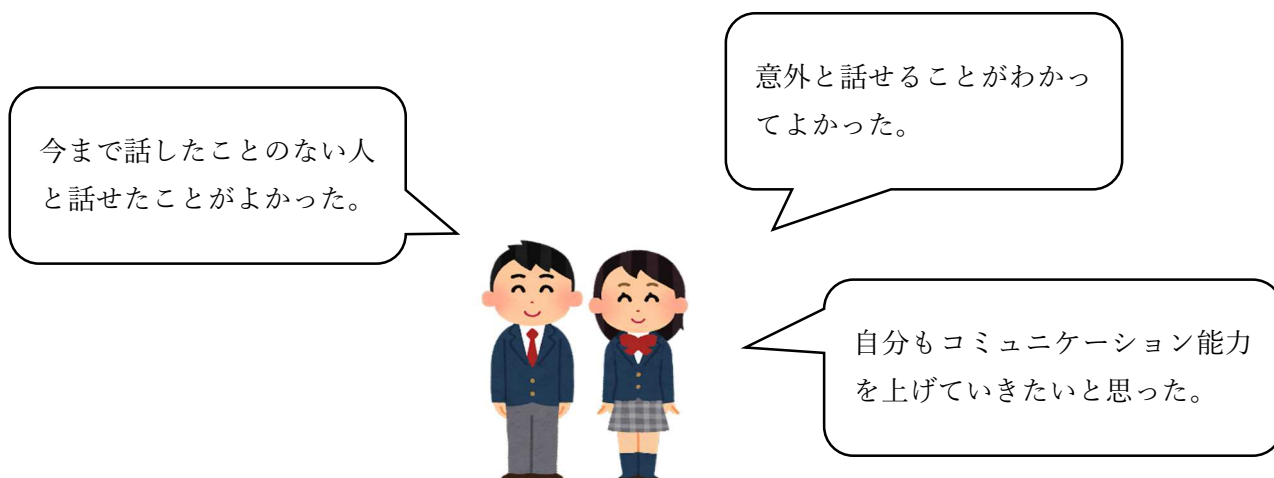
ある男子生徒の振り返りカードには、次のような記述があった。「自分は人と話すのが苦手だと思っていたけど、じっくり話をしたらそんなに苦ではなかったのが驚きだった」。このように、自己開示を通して自分の気づかない意外な面にも気づくことができたのである。

<平成28年度 葛飾商業高等学校>



<平成 28 年度 稔ヶ丘高等学校>

* 担任がリーダーになって実施 (10 クラスの担任があらかじめ同じ内容の研修を受けた)



<平成 29 年度 大崎高等学校>

- ① 「YES・NO クイズ」
- ② 「ヒューマンエレクトロシティ」
- ③ 合わせ「アド・ジャン」
- ④ 4 人 1 組でワークシートを使った「アド・ジャン」
- ⑤ 「新聞紙タワー」



<平成30年度 大崎高等学校>

実施している様子



<令和3年度 工芸高等学校 実施エクササイズ一覧>

	加勇田先生	高橋先生	原田先生
第1・2回のクラス	マシンクラフト科	インテリア科	グラフィックアーツ科
第1回 4月	<ul style="list-style-type: none"> ●バースデーライン ●先生の好きなもののビンゴ ●2人のハートはピッタリ ●アドジャン ●ネームゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ●バースデーライン ●ネームゲーム ●新聞紙ボール回し ●2人のハートはピッタリ ●質問アドジャン ●先生の好きなもののビンゴ 	<ul style="list-style-type: none"> *リーダーを知るクイズ *じゃんけんシリーズ *先生の好きなもののビンゴ *何でもバスケット *ネームゲーム *質問アドジャン
第2回 9月	<p>グループに入れない生徒1名と応援の先生3名、計4名で</p> <ul style="list-style-type: none"> ●私のエゴグラム予想 ●エゴグラム・チェックリスト ●エゴグラムパターンの見方 ●「〇〇の感じ事典」など 	<ul style="list-style-type: none"> ●私のエゴグラム予想 ●エゴグラム・チェックリスト ●エゴグラムパターンの見方 ●「〇〇の感じ事典」 	<ul style="list-style-type: none"> *エゴグラムで語ろう 自分の予想 チェックリスト エゴグラムの読み解きからのキャリア *〇〇の感じ事典
第3回 1月	<ul style="list-style-type: none"> ●新聞紙タワー(新聞紙は1班で3日分の量、4班として12日分の新聞をお願いします) ●図形伝達 ●ジグソーパズル <p>残りの時間でジョハリの窓</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●お絵かきしりとり ●図形伝達 ●ジグソーパズル <p>*時間がある場合は「二者択一」も、やりたいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> *三人寄れば文殊の知恵 *もしも店長だったら *マインドサークル

<令和4年度 赤羽北桜高等学校>

(講演【「いのち」に託されたミッション ～大人になるために必要なこと～】を聞いた感想)

自分の感情を押し殺して相手に合わせるより、自分の本音をしっかりと伝えるようにしたい。アイメッセージをしっかりと伝えるようにしたい。

つらいことを乗り越えられたら「財産」としても心に刺さりました。



自分を知るには、他の人と関わるのが大切だと知ったのでこれからの授業でグループ活動がある場合にはまず相手を知り、そこから自分を知るきっかけになればいいなと思いました。

私は「絶対に失敗したくない」という気持ち強くていろいろなことに挑戦できませんでした。ですが、私もぼうけん心を持って色々挑戦します。もし失敗してもマイナス思考にならずにプラス思考でいようと思いました。

<令和4年度 拓真高等学校>

- ① YES/NO クイズ
- ② 二者択一
- ③ アドジャン
- ④ ネームゲーム
- ⑤ 振り返り

今日の約 1 時間半を経て、たくさんの友達と交流ができ、同じ趣味を共有することができました。学校も始まったばかりで、不安がたくさんありましたが、この学校でやっていく自信ができました。



新しい友達が出来たので良かったです。

いろんな人と話せて楽しかった。

入学してすぐで、名前と顔が一致していない人が多かったが、今回の活動で、名前を覚えられたり、好きなことや嫌いなことなど、お互いをよく知ることができたと思う。これから、体育祭や文化祭など、クラスで団結して取り組む事が多くなると思うが、このクラスで頑張っていきたいと思う。

みんなとすごくワイワイ話せて楽しかった。知り合いだれもない学校生活不安に思ってたけど、みんなと楽しく話せて、不安もふきとんだ。

事務連絡

令和 3 年 2 月 10 日

日本スクールカウンセリング推進協議会

理事長 石隈 利紀 様

東京都立赤羽北桜高等学校長

富 川 麗 子

講師派遣のお願い

下記のとおり本校の入学予定者説明会及びホームルーム活動において、グループエンカウンター講師派遣を依頼したいので、御承諾くださいますようお願いいたします。

記

- 1 内 容 グループエンカウンター講師
- 2 指導日時 令和3年3月25日（木）午後2時30分から
令和3年7月 7日（水）午後2時から
令和3年9月15日（水）午後0時から
令和4年2月 2日（水）午後2時から
- 3 実施場所 東京都立赤羽北桜高等学校
〒115-0056 北区西が丘3-14-20
- 4 希望講師 加勇田 修士 様
他4名

【問合せ先】

東京都立赤羽北桜高等学校

副校長 中村 留美

所在地 〒175-0082

板橋区高島 3-7-1（都立高島高校内）

電 話 03-5997-1333

令和3年4月9日

東京都教育庁指導部
高等学校教育指導課長 様



理事長 石隈 利紀
支援事業委員会委員長 加勇田 修士

「いじめ・中途退学を予防する居場所づくり」調査研究支援事業に関する
高等学校等への周知について（依頼）

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より、ご指導・ご協力を賜り、まことにありがとうございます。

このたび、当協議会では、高等学校等を対象に、「令和3年度 いじめ・中途退学を予防する居場所づくり」調査研究支援事業を計画しております。本事業を都立高校等にご周知を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本事業は、当協議会から講師を派遣して、生徒対象に構成的グループエンカウンターによる人間関係づくりの授業、また教職員対象の研修会を開催いたします。

何卒よろしくお願い申し上げます。

敬白

記

名 称：「いじめや中途退学を予防する居場所づくり」調査研究支援事業

目 的：いじめや中途退学を減少させ、予防的な生徒指導・教育相談の実践例を積み上げて、指導方法の向上に貢献する。

内 容：都立高等学校等に対して、

(1) 構成的グループエンカウンターによる人間関係づくりの活動を希望する学校に講師を派遣する。

(2) 上記(1)を実施するための校内研修を希望する学校に講師を派遣する。

なお、講師に対する謝金、交通費は当協議会が負担する。

申請方法：希望される学校は、当協議会事務局にご連絡ください。

なお、諸般の事情でご希望に応えられない場合もございます。

〔連絡先〕 一般社団法人日本スクールカウセリング推進協議会 (<http://jsca.guide/>)

112-0012 東京都文京区大塚 1-4-15

Tel : 03-3941-8049 Fax : 03-3941-8116 E-mail : info@jsca.guide

以上

【資料3】エクササイズ紹介（一部）

担任の先生の好きな食べ物・飲み物ビンゴ

（ 月 日）

年 組 （ ）

やり方・ルール

- ①先生の好きそうな食べ物をえらび、9個のマスに書く。
- ②先生の発表した食べ物がかいてあったら「ピンポン」と言ってしるしをつける。
- ③二つならんだら「リーチ!」と言って手を挙げる。
- ④三つならんだら「ビンゴ!」と言って先生とエアークラッシュをする。
- ⑤ビンゴになっても最後までつづける。



食べものBOX

ごはん	パン	うどん	そば	パスタ	ラーメン	ピザ	ハンバーガー
にんじん	大根	じゃがいも	ほうれん草	レタス	とうもろこし	きのこ	
焼き魚	焼肉	トンカツ	からあげ	天ぷら	カレー	うなぎ	
牛乳	なっとう	ヨーグルト	チーズ	ワイン	焼酎	ビール	日本酒

ビンゴの結果

ビンゴの数	合っていた数	先生のいんしょう（3つ〇を付けよう）
本		①おこるとこわそう ②めんどうみがよさそう ③なみだもろそう ④つつこみがうまそう ⑤頼りになりそう ⑥そそっかしそう ⑦パワーがありそう ⑧ねばり強そう ⑨リーダー性がありそう ⑩お説教が長そう ⑪宿題が多そう ⑫天然そう

出典 國分康孝監修「エンカウンターで学級が変わる：ショートエクササイズ集1」図書文化 品田笑子執筆

「先生とビンゴ」の形式と項目を一部改編。

しつもん
質問アドジャン

0	す 好きな食べもの・苦手な食べもの		
1	す 住んでいる場所	11	にほん なか りょこう ばしょ 日本の中で旅行したい場所は？
2	す 好きな人のタイプは？	12	にちようび ひま なに 日曜日など暇なとき何してる？
3	す 好きな季節と理由	13	さいきん うれ こと 最近、嬉しかった事
4	好きなタレント・芸人	14	たから 宝くじで一千万円当たったら何に使う？
5	もしも魔法が使えたら	15	いちばんしあわ 一番 幸せなときは何をしている時？
6	好きな教科	16	がっこうせいかつ 学校生活でやってみたいこと
7	好きな飲み物	17	いま ほ か おも 今、欲しいな買いたいなと思っているもの
8	好きな動物（ペットに限らない）	18	もっとパワーアップしたいこと
9	好きなゲーム（スマホのアプリも可）	19	じぶん くせ なお ところ 自分の癖や直したい所
10	す 好きなスポーツ	20	きょうみ しょくぎょう 興味のある職業

國分久子・國分康孝総編集「構成的グループエンカウンター事典」「アドジャン」より編集

「^き気になる^{じがそう}自画像」

氏名(^{しめい})

- 1 ^{れいせい}冷静な 2 ^{せいじつ}誠実な 3 ユーモアのある 4 きどらない 5 やさしい 6 ^{あたま}頭がよさそう
 7 ^{こうへい}公平な 8 よく^き気がつく 9 ^{ゆうき}勇気がある 10 ^{こせいてき}個性的な 11 あたたかい 12 ^{しず}静かな
 13 まじめな 14 ^{しんせつ}親切な 15 ^{おも}思いやりがある 16 エネルギッシュな 17 ^{たよ}頼りになる
 18 ^{あか}明るい 19 ^{しょうじき}正直な 20 ^{かつぱつ}活発な 21 ^{ちゅういふか}注意深い 22 ^{ひと}人なつこい 23 ^{そぼく}素朴な
 24 ^{あいそ}愛想の^よ良い 25 ^{こころ}心が^{ひろ}広い

A

B

^{わたし} ^{えら} 私 ^{えら} が選んだメンバーの ^{とくせい} 特性（キャラクター・ ^{ふんいき} 雰囲気）。上の表から ^{うえ} ぴったり3つ ^{えら} 選ぶ。			グループの メンバーの ^{なまえ} 名前	メンバーが ^{えら} 選んでくれた ^{わたし} 私の ^{とくせい} 特性。		
()	()	()	^{じぶん} 自分			
()	()	()		()	()	()
()	()	()		()	()	()
()	()	()		()	()	()
()	()	()		()	()	()

振り返りシート【 月 日】

1 年()組()番:名前()

1 次の質問について、1から4までの該当する欄に○を記入してください。

今日の活動を振り返ってみましょう。		1	2	3	4
		すごく そう思う	そう思う	少し そう思う	思わない
ア	楽しかったですか。				
イ	リラックスして取り組みましたか。				
ウ	クラス(または学年)の人と話ができましたか。				
エ	これからの学校生活に役立ちそうですか。				

2 感じたこと、気づいたことを自由に記述してください。